

事業計画書

(2024年4月1日~2025年3月31日)

1. 「語らい座 大原本邸」事業

(1) 入館者数等 (目標入館者数 47,000 人)

「語らい座 大原本邸」の公開事業は大原孫三郎、總一郎をはじめとする大原家の功績について広く理解いただくことを目的としており、また当会の収益基盤を確立するためにも、その入館者数の拡大が重要となる。

前年度 (R5 年度) は開館以来最高の入館者数となる見込みだが、当年度は更なる拡大を目指す。

主な施策は次のとおり

① 「くらしき町家留学」

- ・教材を作成の上、倉敷市にも働きかけを行い、大原孫三郎について学ぶ倉敷市の小学4年生を中心に、小・中・高校生の「探求学習の場」としての入館誘致を図る。
- ・倉敷市、岡山県観光連盟との連携による教育旅行各社・個別高等学校への修学旅行誘致を図る。

② インバウンド需要の取込み

- ・コロナ感染症に伴う訪日外国人減少からの回復、また来年に控えた大阪万博によるインバウンド需要の増加が見込まれており、HP、その他館内案内・説明の充実を図る。また旅行会社との外国人向け商品開発を行う。

(2) 教育支援事業

「余の使命は教育にあり(大原孫三郎)」と「教育」こそ社会の根幹と考えた大原家の理念に基づき、「未来を育てる人材の育成」を目的とした「くらしき未来 K 塾」、
「くらしき町家留学」の他、地域・学校と連携した教育支援事業を実施する。

①くらしき未来 K 塾

「社会に開かれたカリキュラム (文部科学省)」に取り組む学校・教師と、CSR (Corporate Social Responsibility)、CSV (Creating Shared Value) を実践する企業・企業人とを繋ぎ、共に学び・考え・語る場として、くらしき未来 K 塾を継続開催する。より良い「まち育て」「ひと育て」創出の一助、また大原家の社会貢献思想の敷衍を目的とし、年7回開催する。

<くらしき未来K塾 開催予定>

	開催日	演題	講師
第44回	2024. 7.13(土) *特別展 7/9~8/4	大原家の書簡の数々③	水島 博 (語らい座大原本邸 学芸員)
第45回	2024. 8.24(土)	(仮)高校生と探Qする倉敷の未来	大原 謙一郎 氏 (大原家9代目当主× 倉敷市内高校生会議)
第46回	2024. 9.28(土)	(仮)子どもが面白いがる学校を創る ～誰のための改革?	平川 理恵 氏 (広島県教育委員会 前教育長)
第47回	2024.10.26(土)	(仮)越前屋変人類研究所 in 語らい座大原本邸	越前屋 俵太 氏 (タレント・文筆家・ 書道家)
第48回	2024.11.16(土)	紅葉コンサート in 語らい座 (チェロ & ピアノ)	三船 文彰 氏 (ミフネ歯科医院院長) 荒木 渉 氏 (ピアニスト)
第49回	2024.12.21(土)	(仮)実験の民主主義 ／公教育はなんのためにあるか	合田 哲雄 氏 (文化庁次長)
第50回	2025. 1.18(土) *特別展 1/7~2/2	大原家の書簡の数々④	水島 博 (語らい座大原本邸 学芸員)

* 第50回までのセミナーを振り返り、記念誌を作成。

「くらしき未来K塾～学校と地域を結ぶ「総合的な探Q」への挑戦①～」

(続編「くらしき町家留学～学校と地域を結ぶ「総合的な探Q」への挑戦②～」)

②くらしき町家留学

「語らい座大原本邸」をプラットフォームに、大原家関連諸施設でのフィールドワーク・研修を通して、天領倉敷の町衆精神や民活の文化に触れる「地域課題探究型学習 (Project Based Learning)」として開催。小学生から大学生までの地域体験学習、企業の新入社員研修、中高生の体験研修型修学旅行、大人の「修学旅行」など、予算・日程・ニーズに合わせ企画提供し、入館者増及びブランディングを図る。

(3) 特別展の開催

次の2回の特別展を開催する。開催にあたっては説明資料の準備、くらしき未来K塾でのギャラリートークの企画等、来館者に大原家への関心、理解をより高めていただく。

開催日	名称
2024.7.9(火)～8.4(日)	大原家の書簡の数々③ ～児島虎次郎と棟方志功からの書簡～
2025.1.7(火)～2.2(日)	大原家の書簡の数々④ ～葡萄・白桃礼状特集～

2. 「第68回大原孫三郎・總一郎記念講演会」の開催

開催日時 2024.7.26(金)

16:00～17:00 高校生プレセッション

18:30～20:00 記念講演会

開催場所 倉敷公民館大ホール

講師 三浦 篤 氏 (大原美術館 館長)

演題 未定

3. 大原總一郎日記研究会

引続き大原總一郎日記研究会を大阪またはオンラインで開催し、読み進んだ日記を整理し、製本する。また研究会の開催頻度を増やすとともに、日記の公開についても検討する。

年1回、倉敷にて日記研究会における成果発表の機会を設け、研究者・関係者の交流及び研鑽の一助とする。

4. 所蔵品の整理、調査、研究及び公開

大原家に関する江戸時代からの古文書や大原孫三郎・總一郎に関する書籍・書簡などの資料を分類・整理し、当会の事業に活用するとともに情報を研究者へ提供する。

また整理済文書について順次デジタル撮影を進める。

以上

資金調達及び設備投資の見込みについて

1. 資金調達の見込みについて

該当ありません。

2. 設備投資の見込みについて

該当ありません。